

# 食道癌に対する治療法別の予後解析

平成 26 年 8 月 1 日作成

申請者（実施責任者）熊谷洋一

所属 埼玉医科大学総合医療センター 消化管・一般外科

## 【目的】

食道癌の治療は手術、放射線治療、化学療法などの治療法を適切な時期に適切な順番で行う集学的治療が行われる。また、リンパ節転移のない早期癌においては内視鏡的食道粘膜切除（粘膜下層剥離）術が行われ患者の QOL の向上に大きく貢献している。進行食道癌の治療戦略として手術を中心とした集学的治療が行われるが頸部、胸部、腹部にわたる食道切除再建術は患者に過大な侵襲を加えるためハイリスク症例や手術拒否例を中心に化学放射線療法が行われることもある。これらの治療法別の予後を解析しその妥当性を評価する。また各種組織型別にも予後を解析する。

## 【方法】

当院旧外科系診療科あるいは消化管・一般外科で治療を受けた、食道癌患者の診療録からデータベースを作成する。上記期間において治療法別に治療前後の採血データを含むすべての臨床検査データ、病理組織学的検査をもとに食道悪性腫瘍の臨床病理学的因子と予後について解析し、原発腫瘍の治療法、再発症例の治療上の問題点について考察する。また、食道癌の 90% を占める組織型は扁平上皮癌であるが、そのほかにも Barrett 食道腺癌をはじめ粘表皮癌、腺扁平上皮癌などの腺癌系、類基底細胞癌、癌肉腫、小細胞未分化癌、悪性黒色腫などその頻度が数% のものから症例報告レベルの組織型の悪性腫瘍が存在し総称して特殊型食道癌と呼ばれている。これらの悪性腫瘍の臨床病理学的因子と予後についても同様に解析する。

患者背景、手術因子、術後短期および長期合併症、臨床病理学的因子、予後などを後向きに検討する。Cox 比例ハザードモデルによる多変量解析を行い、無病生存あるいは全生存期間に与える因子を解析する。予後因子が判明した場合、その因子が連続変数であれば、合併症を予測する適切なカットオフ値を ROC (Receiver operating characteristics) 曲線下面積の解析から求める。これらの解析を通じて、食道癌の適切な治療法や患者管理方法について検討する。また、明らかにされたリスク因子がどの程度予測因子として有用かといった点について、各種統計学的手法を用いて評価する。

## 【研究期間】

倫理委員会承諾後～2017 年 3 月 31 日

## 【対象症例と症例数】

旧外科系診療期科（1998.1-2005.3）および消化管・一般外科（2005.4-2014.6）において食道悪性腫瘍の治療が行われた全患者最大約 800 例を対象とする。

### 【調査項目】

患者背景（年齢、性別、術前併存疾患、臨床検査値など）、治療法、手術因子（術式、手術時間、出血量、輸血量など）、術後短期および長期合併症、臨床病理学的因子、腫瘍マーカー、および予後（生死、再発の有無、死亡原因など）。

### 【個人情報の取扱い】

データベースを作成時に連結可能匿名化処理（対応表を作成）を消化管・一般外科内で行う。匿名化はデータマネージャーの資格を有する医局秘書（平成26年8月現在2名）が准教授石橋敬一郎の監督のもとで行い、対応表はインターネットに接続されていない消化管・一般外科のコンピューター内に保管される。匿名化されたデータベースは解析時を除き、当院の個人情報保護責任者である 病理部 田丸淳一教授のもとで厳重に管理される。

### 【個人情報に関する利用目的】

本研究にのみ利用する。

### 【被験者に理解を求め同意を得る方法】

研究計画書をホームページに掲載する。

### 【研究計画書のホームページ掲載】

研究計画のホームページ公開用文（案）を以下に示す。

—消化管・一般外科で行っている非介入的・後方視的観察研究について—

消化管・一般外科では、食道・胃・大腸などの消化管を中心とした消化器の良・悪性疾患に対する外科治療、内視鏡治療、化学療法などを診療の柱にしています。大学病院であるという性格上、診療を受けた患者さまの治療結果や、診療を通して得られた疾患（病気）の特徴などを明らかにする研究を随時行い、その成果を随時学会・研究会等、あるいは学術雑誌に発表しています。この研究は、あくまでも通常の診療の範囲で得られた医学的な情報について、解析を行うもので、患者さま御自身の個人的な情報が漏えいしたり、健康被害や不利益が生じることはいっさいありません。

解析の対象となる患者さまは、以下の通りです。

①2005年4月1日以降、消化管・一般外科であらゆる治療（外科治療、内視鏡的治療、化学療法、緩和医療など）を受けた患者さま

②1985年6月14日の当院開設以降、2005年3月31日までに外科系診療科（旧第1外科、第2外科、あるいは外科）で診療を受けた食道・胃・小腸・大腸の良・悪性疾患および、稀な腹部腫瘍性疾患（後腹膜腫瘍など）の患者さま

具体的な研究テーマは以下の通りです。

- ・食道癌に対する治療法別の予後解析（その他の研究テーマとともに列挙する予定）

本研究は当院倫理委員会ですでに承認されています。

本研究に対する問い合わせ先

〒350-8550

川越市鴨田 1981 埼玉医科大学総合医療センター 消化管・一般外科

診療科長・教授：石田秀行

TEL：049-228-3618

### 【知的財産権】

本研究に関して生じた知的財産権は消化管・一般外科に帰属する。

### 【研究責任者，実施者，連絡先】

実施責任者:総合医療センター	消化管・一般外科	准教授	熊谷洋一
実施分担者:総合医療センター	消化管・一般外科	教授	石田秀行
総合医療センター	消化管・一般外科	教授	持木彫人
総合医療センター	消化管・一般外科	講師	福地 稔
総合医療センター	消化管・一般外科	助教	傍島潤
総合医療センター	消化管・一般外科	助教	桑原 公亀
総合医療センター	消化管・一般外科	助教	石畝亨
総合医療センター	消化管・一般外科	助教	松澤岳晃
総合医療センター	消化管・一般外科	助教	幡野哲
総合医療センター	消化管・一般外科	助教	天野邦彦
総合医療センター	消化管・一般外科	助教	今泉英子
総合医療センター	消化管・一般外科	助教	鈴木興秀
総合医療センター	消化管・一般外科	助教	小野澤寿志
総合医療センター	消化管・一般外科	助教	渡辺雄一郎
総合医療センター	消化管・一般外科	助教	田島雄介
総合医療センター	消化管・一般外科	助教	近範泰
総合医療センター	消化管・一般外科	助教	山本 梓
総合医療センター	消化管・一般外科	助教	牟田 優
総合医療センター	消化管・一般外科	助教	柴田和恵
総合医療センター	消化管・一般外科	非常勤講師	隈元謙介
総合医療センター	消化管・一般外科	非常勤講師	大澤智徳
総合医療センター	消化管・一般外科	非常勤医師	近谷賢一
総合医療センター	消化管・一般外科	非常勤医師	平岡優
総合医療センター	消化管・一般外科	非常勤医師	伊藤徹哉
総合医療センター	消化管・一般外科	非常勤医師	村田知洋

(連絡先)

〒350-8550

川越市鴨田 1981 埼玉医科大学総合医療センター 消化管・一般外科

担当者：熊谷洋一

TEL：049-228-3618